

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)佐渡市将来ビジョンの改定について

- ①改定へのスケジュール・体制・方針の状況
- ②改定後の広報戦略・周知方法
- ③『前向きの島づくり』という考え方

(2)持続可能な環境の島づくりについて

- ①兵庫県淡路市『あわじ環境未来島構想（エネルギー関係）』の取り組み
- ②国連のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをSaDoGsへ
- ③『自然エネルギーの島』構想への三浦市長の本気度は

(3)子育てしやすい島づくりについて

- ①岡山県勝田郡奈義町『子育て応援宣言』の取り組み
- ②兵庫県明石市『こども総合支援条例』の取り組み
- ③『切れ目のない子育て支援』への三浦市長の本気度は

■■■演壇にて■■■

皆さん、おはようございます。三度のメシより佐渡が好き！！政風会の室岡啓史でございます。

新元号、令和の時代の幕開けです。タレントのタモリさんは本に例えて、『西暦がページ数だとすれば、元号は章だと思いますね。それがあるといことは、切り替えができますよね。』とおっしゃっています。『よくぞ日本に生まれにけり』と思います。

私もハタと思いつきましたが、『へいせい』+『れいわ』=『へいわ』+『れいせい』ということで、この国がさらに平和で冷静な時代になれば良いなと切に願っています。いわんや佐渡市をやです。

さて、4名の議員の皆さん、4月執行の補欠選挙でのご当選、おめでとうございます。私自身、3年前に初当選させていただいた頃の初心を思い出します。当時、先輩議員からは、『佐渡市議会は魑魅魍魎の世界だけどがんばりなさい！』と激励いただいたことを昨日のここのように思い出します。そのお言葉があって今があると思っており感謝の気持ちでいっぱいです。その御仁のお名前は伏せますが、今この瞬間、私の背中を誰よりも温かい眼差しで見守ってくださっていることでしょう。今回当選された皆さんも、よりよい佐渡市政実現のために、粉骨砕身ともにがんばって参りましょう！政風会の私だけに、できる限りの先輩風を吹かせていきたいと思ひます。

去る4月には、佐渡市議会臨時会にて、補欠選挙の予算計上として4,182万8,000円の専決処分の議案がありました。この予算は、全て佐渡市の自腹で処理しなければなりません。今回補欠選挙が執行されたのは、1名のご逝去と3名の議員辞職により欠員が4名となったことで18名を議員定数22に戻す必要があったためです。来年4月執行予定の本選挙では、1議席減の21名が選ばれるということになっておりますので、市民の皆さんからもあと1年なのにもどうしてもやらなければならないのか？とのご質問もいただきました。

答えは、法令のルールに則りやらなければならなかったということです。公職選挙法第113条により、市区町村議会においては、欠員が定数の6分の1を超えた時に補欠選挙が行われる。補欠選挙を行うべき事由が発生した場合、50日以内に行われる。ただし、任期満了の6か月以内に欠員が生じた場合、補欠選挙は行われず。ということになっています。つまり、任期満了の2020年4月の半年前となる2019年10月までに定数22のうち、6分の1を超えた4議席が空席になったことで、その欠員を補填しなければならないために行われた補欠選挙ということになります。

政治の世界に『たられば』は馴染まないとは思いますが、もしも3名の議員辞職者のうち、お一人でも辞職を踏みとどまっていたのであれば補欠選挙を行う必要がなかったということになります。私は、辞職されたお三方いずれも、同じ釜の飯を食う仲間であったが故に、誠に残念であり、そして責任の一端を感じております。

選挙というシステムは、人類の英知が生み出した最も偉大な発明の一つだと私は思います。つまり、権力や権威の奪い合いに対して、血を流すことなく、汗を流した者が首長や議員となるシステムは本当に素晴らしいということです。しかしながら、今回の補欠選挙では、ルールに則り粛々と事が進む民主主義というものの限界を感じましたし、『民主主義は金がかかる』とは補欠選挙に4,000万円ということを使うのだなと痛感した次第です。

さて、嘆きの声はこれぐらいにして、気持ちを前向きに切り替え、『なんでも提案団』として通告に従い、佐渡市議会、令和最初の一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)佐渡市将来ビジョンの改定について

- ①改定へのスケジュール・体制・方針の状況
- ②改定後の広報戦略・周知方法
- ③『前向きの島づくり』という考え方

佐渡市の将来像を明確にするため、平成21年に策定された佐渡市将来ビジョンは、財政計画、行政改革、成長力強化戦略を包括した市の最上位計画です。国の「まち・ひと・しごと創生法」の制定を踏まえ、平成27年7月に「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したことなど、佐渡市を取り巻く環境に変化が生じたことから、新たな平成31年度の佐渡市のあるべき姿を明確にするため、佐渡市将来ビジョンを見直したのが平成29年3月。そしてこの度、改定の時期を迎えました。

そこでお尋ねします。改定へのスケジュール・体制・方針の状況はどのようになっているのでしょうか。また、改定後の広報戦略・周知方法についてはどうする予定なのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

私は、『前向きの島づくり』という考え方を佐渡市将来ビジョンの『そもそも論』として盛り込むことを提案致します。3年間の政治活動の中で、たくさんの方々と意見交換させていただいたことを、私なりにギュッと10文字にまとめた結果、『前向きの島づくり』というコンセプトを生み出すに至りました。ご存じのとおり、日本の人口は、2008年頃から減少しはじめました。国連の人口推計によれば、2000年から2025年にかけて、日本以外にイタリア、ドイツ、ロシア、ウクライナなどが、人口が減少していくと予想されております。国の人口が減れば、原則として国内総生産は減り、経済は縮小していきます。今まであったはずのお店や公共施設はいつしかなくなり、活力の弱まりを肌で感じることとなります。そうなれば、一般的には危機感に由来するマイナス思考に落ち込むことは必至です。そこで、まずは佐渡市民の皆さまとともに心持ちからでもプラス思考に変えていこうという発想です。カラ元気から始まる本当の元気というものがあるのではないかとことです。

コップに半分水が入っていることを想像してみてください。『もう半分しかない』と嘆くよりも『まだ半分もあるじゃないか』と捉えてみようではありませんか。人口減少に端を発するあらゆる衰退をプラス思考で捉え、佐渡がトップランナーとなることで、この県、この国を引っ張って行こうではありませんか。私は推定50年という残りの人生をかけて、焦らず、気負わず、佐渡市民の皆さまとじっくりと共有していきたいと思っております。これらのことについて、佐渡市の見解をお聞かせください。※ロゴマーク・日/英のキャッチコピーは自分で制作しました。佐渡の形を小判2枚で表現、矢印2つで前向き感を表現してシンプルな図形を組み合わせて作ってみました。矢印を角丸にすることで、エッジを効かせず『あせらず、じっくり』感を表現しました。佐渡の図形は水平から -50° すなわち 310° 傾けています。語呂合わせで佐渡だけに。。また、佐渡のアイランドカラーを柔らかく優しい黄緑色としました。

(2)持続可能な環境の島づくりについて

- ①兵庫県淡路市『あわじ環境未来島構想（エネルギー関係）』の取り組み
- ②国連のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをSaDoGsへ
- ③『自然エネルギーの島』構想への三浦市長の本気度は

平成30年6月定例会以降何度も取り上げた持続可能な環境の島づくりについてお尋ねします。4月には洋上風力発電の導入拡大を目指し、再エネ海域利用法が施行されました。また5月、市民厚生常任委員会にて兵庫県淡路市『あわじ環境未来島構想（エネルギー関係）』の取り組みを視察して参りました。日照量の多い淡路島のあらゆる土地でメガソーラー発電が行われ、西海岸では風力発電を行いながら、関西電力や四国電力との連携による送電・売電の取組みについて等の説明を受けてきました。また、淡路市防災あんしんセンターでは、淡路市の防災担当課と学校給食の配食センター機能が兼ねられ、行政としての太陽光発電を管理・把握しておりました。佐渡市としても大いに参考にすべき事例かと思いますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、平成30年12月定例会でも取り上げた、国連のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをSaDoGsへということについてお尋ねします。SDGsとはサステナブル・デベロップメント・ゴールズ（Sustainable Development Goals）の略で、世界を変革する持続可能な開発目標のことです。奇しくもサドガシマ（Sa Do Ga shima）の頭文字でもあります。SDGsは、2015年に国連本部で日本を含む193の加盟国の合意の下で採択された「世界を変革するための17の目標と169のターゲット」のことです。持続可能性を地球規模で考えた時に、非常に重要な目標であり、民間企業や日本青年会議所等の各団体も力をいれてSDGsの実現に取り組もうとしている状況にあります。そこで、佐渡市としてSDGsに関して『7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに』等について、どのようなことに取り組んでいるのか、取り組もうとしているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、『自然エネルギーの島』構想への三浦市長の本気度についてお尋ねします。去る2月新潟県と東北電力は、再生可能エネルギーの導入推進ほか防災・防犯、健康、観光、産業振興、学び、地域活性化等に関する6項目から成る包括連携協定を締結。

- 【連携項目】1. 防災・防犯に関すること 2. 健康・暮らしに関すること
3. 観光・拠点化に関すること 4. エネルギー・産業振興・人口増に関すること
5. 学び・次世代に関すること 6. その他、地域の活性化等に関すること

同時に、離島の電力を洋上風力や太陽光発電でまかなう『自然エネルギーの島』構想として、佐渡や粟島で再生エネルギー施設の設置を進めるとともに、複数の施設を一括して制御することで電力を安定供給する新たな仕組み作りを目指すこととなりました。花角英世新潟県知事は『佐渡や粟島でエネルギー関連の色々な試みを実施し、世界に誇れる最先端の地域になれるよう取り組んでいく。将来的に100%自然エネルギーでまかなえる島にしたい』と期待を込められました。この文字通りの追い風に対して、三浦市長の本気度があってこそ、県と市との連携の下にプロジェクトが推進していくものと考えますが、市長としての意気込みについてお答えください。

(3)子育てしやすい島づくりについて

- ①岡山県勝田郡奈義町『子育て応援宣言』の取り組み
- ②兵庫県明石市『こども総合支援条例』の取り組み
- ③『切れ目のない子育て支援』への三浦市長の本気度は

最後に、子育てしやすい島づくりについてお尋ねします。同じく5月に市民厚生常任委員会にて行政視察で訪れた岡山県勝田郡奈義町『子育て応援宣言』の取り組みについて、役場には『子育て応援宣言のまち、子育てするなら奈義町で！！』との垂れ幕が掲げられ、まさに宣言をしていることが印象的でした。また、子育て支援策を番号で整理して23の子育て支援策をもって『子育てするなら奈義町で！！』とキーワード化している点も秀逸でした。平成26年には、年間出生数60人、合計特殊出生率も2.81まで引き上げました。平成28年の佐渡市の合計特殊出生率は1.87ですから、約1ポイントも高い水準にあります。佐渡市の人口は奈義町の約10倍でありながら、出生数について佐渡市は奈義町の約5倍程度に留まっているという状況です。また、奈義町の子どもを持つ世帯のうちの約5割が3人以上の多子世帯であるとのこと説明でした。同僚議員が以前の一般質問で取り上げられたとおり、素晴らしい取り組みを視察させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、兵庫県明石市『こども総合支援条例』の取り組みについても大変勉強になりました。明石市長は、常日頃『子どもは宝、子どもを不幸にさせない！』とおっしゃっているそうです。明石市長が問う『本気度』を明石市職員が考え、行動する。法務に精通している明石市の弁護士職員も数名おるそうです。神戸市・大阪市のベッドタウンとしての好立地ということもありますが、明石市の人口は平成26年以降、V字回復しております。人口増による個人市民税の税収は約6億円増で、毎年の財政効果として大きく、増えた税収は子ども施策の充実に活用しているとのことでした。高齢者のための予算を削っている訳ではないので、高齢者世代からは特に不満の声は出ていない、とのことでした。明石市の当初予算規模は、約1,120億円。うち民生費は今年度約562億円。うち、子育て施策には約240億円を投入しているそうです。子育て施策に総予算の約2割を投入していることとなります。これが明石市長の子どもへの投資の『本気度』です。市長が変わっても継続して子どもの支援をするための裏付けとなる条例として『こども総合支援条例』は1年の急ピッチで制定されたそうです。もともとは行っていたこどものための施策を弁護士職員を中心に速やかに条例化したとのことでした。基本的な考えは、明石市民の皆さんに浸透しているそうです。

そこで、『切れ目のない子育て支援』への三浦市長の本気度についてお尋ねします。奈義町や明石市は子育て支援に対して強い本気度をもって取り組んでおられました。子育て施策のさらなる充実、高校・大学生を対象とする返済不要の奨学金制度も始めた三浦市長の『切れ目のない子育て支援』への本気度について、アツい思いをお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。